

平成 30 年度第 1 回 あいち多文化共生タウンミーティング開催結果報告書

平成 30 年 7 月 7 日(土)、平成 30 年度第 1 回あいち多文化共生タウンミーティング@名古屋を開催しました。休日にもかかわらず、日本語教室ボランティアの方、日本語教室に通う外国人県民の方、市町の国際交流協会の方、教員をされている方等、34 名の参加者の皆様にお集まりいただきました。誠にありがとうございました。開催結果を以下にまとめましたので、ご覧ください。

開催概要

テーマ 「日本語教室のこれからを考える」

場 所 あいち国際プラザ2階 アイリスルーム

時 間 午後0時10分から午後1時50分

当日の流れ

- 1 愛知県の多文化共生について（説明者 愛知県多文化共生推進室 大久保主査）
- 2 基調報告（報告者 翻訳・通訳業/外国人生徒教育支援員 伊藤クリスティーナ氏）
- 3 ワークショップ

1 愛知県の多文化共生について

今回のタウンミーティングで初めて「多文化共生」という言葉について、聞いたり、考えたりするという参加者の方もいらっしゃいました。この後の基調報告やワークショップの参考としていただくために、愛知県の多文化共生について統計データ等を用いて簡単に説明をさせていただきました。



2 基調報告

日ごろ外国人の語学習得支援の現場で、活躍されている伊藤クリスティーナ氏(フィリピン出身)から、基調報告をしていただきました。実際に支援を受ける学生の悩みや、支援員の悩み等を収録した動画を用いることで、現場の生の声を交えながら話をさせていただきました。



3 ワークショップ

ワークショップでは、前半の基調報告の内容を踏まえ、テーマごとに4つのグループに分かれて、意見交換を進めました。どのグループも議論が絶えることなく、活発な意見交換が行われました。以下にそれぞれのグループで挙げた意見をまとめました。

グループ①「子どもの日本語教室」

○テーマについて経験や課題に感じていることを話し合う中で挙げた意見

- ・日本語か否かに関わらず、まず第一の言語(強い言葉)の習得を支援することが重要ではないか。一方、家庭で母語を(日本語以外であっても)言葉豊かに育ててあげることが、日本語習得にも役立つと考えられる。知識をきちんと持って支援していく必要がある。
- ・子どもにとっては、人や時間帯で言葉を分けるようにすることも言語習得には有効ではないか。(例えば、学校では日本語、家庭では、母国語。朝ごはんの時間は母国語、それ以外の時間は日本語、お父さんとは日本語、お母さんとは母国語など。)
- ・子どもにとっては、日本語習得と合わせて、日本文化の習得も大切。“日本文化だからこうしなければならない”と押し付けるのではなく、なぜそうなるのか等を丁寧に説明し、理解を求めていくことが大切。

○解決策を検討する中で挙げた意見

- ・子どものアイデンティティを第一にして、日本語を習得していくのが良いのではないのか。子どものアイデンティティは確立するまで揺れ動き、個人差がある。一つの型に当てはめて考えるのではなく、一人一人と向き合いながらその子にあった育て方・支援をしていくべき。
- ・日本語教材が充実している必要がある(日本には、学習者の属性や、レベルごとの日本語の教材が少ない。いろいろな種類のものが必要。)
- ・子ども用の辞書(外国にルーツを持つ子どもが使える辞書)があれば便利ではないか。
- ・指導員の研修や、今回のタウンミーティングのような、支援員同士で悩みを共有・意見交換をしたり、つながることができる場の充実。

グループ② 「大人の日本語教室」

○テーマについて経験や課題に感じていることを話し合う中で挙げた意見

- ・地域の日本語教室には卒業がなく、目標が明確でない。会話ばかりだと、学習者が辞めていってしまう。おしゃべりサロンのような雰囲気であってもテーマがあるとよいのではないか。学習の「積み上げ」ができないと、モチベーションが下がってしまうので、学習者のモチベーションをどのように保つのか考える必要がある。
- ・学習者のニーズを教室がきちんとキャッチできているか分からない。教える指導者のレベルの差、学習者の能力の差があり、需要と供給がかみ合っていない。
- ・(学習者意見)日本文化・習慣を知りたい。自分のニーズに合った教材を用意してくれたことが嬉しかった。それがモチベーションアップになった。

○解決策を検討する中で挙げた意見

- ・目的や特長を絞った日本語教室を展開すべきではないか。どのレベルまで勉強してもらうのか等、レベル別にボランティア教室も特色を出していく。そして、学習者が目的ごとに母語で日本語教室を探することができる、日本語教室(学習)ポータルサイト(学習者のニーズに即した仕組み)があると良い。
- ・学習者はテキストをお金を出して買う。そうすることで、モチベーションが上がるのではないか。
- ・指導者のために、こういう学習者には、こうアプローチするといった指導案を共有できるようにすると良い。

グループ③ 「外国人の担い手を増やすには」

○テーマについて経験や課題に感じていることを話し合う中で挙げた意見

- ・場所、情報共に外国人がアクセスしやすい、参画しやすい環境がないことが問題ではないか。
- ・担い手となりうる、外国人リーダーが誕生しても、外国人同士でコミュニティが分かれてしまうことがある。
- ・企業にも協力を求めることで、外国人にも主体的な参加や協力を求めやすくなるのではないか。
- ・外国人がどうして日本に来ているのか、日本語教室に来ているのか等日本人も理解する必要がある。お互いに歩み寄って支え合う気持ちが必要。

○解決策を検討する中で挙げた意見

- ・学校や企業等、外国人の生活に直接大きく関わっている機関同士が連携することで、地域の住民を始め、日本語教室等とのつながりが生まれやすくなる。
- ・それぞれの立場で、つながりを大切にしながら現在行っている活動を続けていく。この分野に関わり、理解する人が増えることで、外国人の担い手を増やすことにもつながる。

グループ④ 「日本人の担い手を増やすには」

○テーマについて経験や課題に感じていることを話し合う中で挙げた意見

- ・どの教室も、学習者が多国籍で人数も多いが、教室のスタッフ不足で困っている。
- ・“日本語教室”という、関わったことのない人にとって敷居が高いものになっている可能性がある。必ずしも日本語を教える人を増やすのではなく、関わる人(事務受付、書類作成等サポーターとしての役割を果たす人)を増やすのが必要ではないのか。
- ・チューター制度を作って、日本語の勉強ではなく、話をしたり、サロンのようにテーマを設けて話をする。
- ・日本語教室に特化せず、何か興味を示せるもの(多国籍料理やスポーツ等)の仕掛けを用意し、興味関心を引く。

○解決策を検討する中で挙げた意見

- ・日本語を教えるという視点以外の視点(スポーツや料理)を取り入れることで、既存のつながりを深めたり、活動に関わったことのない層にも働きかける。



ワークショップの最後には、グループごとに、話し合った内容をまとめたうえで発表していただき、参加者全員でワークの内容を共有しました。各グループの発表を受けて、最後にクリスティーナ氏から一言いただきました。

みなさんの議論を聴いて、とても嬉しい気持ちになってきました。私は、今日のような小さな出会いのつながりがきっかけとなって、大きな力を生むと強く信じて活動しています。多文化共生の現実、事実について知り、様々な立場の人が考える今日のような機会が増えてほしい。今後、外国人の増加が予想される中、共生ではなく、共創も大切なことで、課題になっていこうと考えています。これまでのつながり、今日生まれたつながりを大切に活動を続けていきましょう。



アンケート結果(一部抜粋)

※回答数 22 名

1 このタウンミーティングを何で知りましたか。

チラシ	9
県のホームページ	4
県の FaceBook	2
知人からの紹介	5
新聞	0
その他	1
無回答	2

2 前半の基調報告はいかがでしたか？感想をお聞かせください(一つ選択)

①とてもよかった	15
②よかった	7
③ふつう	0
④よくなかった	0
⑤全くよくなかった	0

2-1 感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

①楽しかった	17
②つまらなかった	0
③活動を進める上での参考になった	12
④新しい内容を聴くことができた	6
⑤聞いた事がある話ばかりだった	1
⑥多文化共生社会づくりに興味がわいた	7
⑦多文化共生社会づくりのヒントを見つけることができた	7
⑧その他	1
⑨無回答	1

【その他の意見】・情報がよかった。

3 後半のワークショップはいかがでしたか？感想をお聞かせください(一つ選択)

①とてもよかった	14
②よかった	6
③ふつう	1
④よくなかった	0
⑤全くよくなかった	0
⑥無回答	1

3-1 感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

楽しかった	14
つまらなかった	0
活動を進める上での参考になった	11
新しい内容を聴くことができた	8
聞いた事がある話ばかりだった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	8
人脈を広げることができた	8
多文化共生社会づくりのヒントを見つけることができた	8
その他	2

【その他の意見】・様々な意見が挙がった。オープンで話すことは大切。

・色々な立場の人と話すことが出来てよかった。

4 今後、タウンミーティングをよりよいものとしていくために、御意見があればぜひ教えてください。

- ・基調報告は有意義で、内容も納得なのですが、その後の時間、グループの時間をもう少し取ってほしいかった。
- ・初めてこのような会に参加しましたが、とても良かった。自分の会に持ち帰って、皆で共有したいです。
- ・もっと深く掘り出すことを楽しみにしている。
- ・いろいろな立場の人
- ・ワークをするのに、グループごとの机が近すぎて、声が聴きづらいことがありました。
- ・色々な地域(岐阜県可児、山梨県甲府、愛知県豊田)を見てきましたが、どこも必死に活動されている方を見ました。
- ・もう少しワークショップの時間が長ければと思いました。
- ・外国人がうまく日本で生活できるように、日本人との交流を作り、情報共有の場や会話できる環境を期待します。

おわりに

今回のタウンミーティングを通して参加者の皆様から頂きましたご意見は、今後関連する施策を進める上で参考にさせていただきます。改めて、参加して下さった皆様ありがとうございました。

あいち多文化共生タウンミーティングは、昨年度3月に策定した「愛知多文化共生推進プラン 2022」の重点施策の一つで、毎年3回開催することとしております。日頃、多文化共生に関心を持って活動していただいている方も、そうでない方も、どなたでも参加していただくことができます。

今年度は残り2回開催をします。ご都合つく方はぜひ、次回以降のご参加をお待ちしております。



愛知県多文化共生シンボルマーク

多文化共生の社会づくりについて
広く県民に親しんでもらうため、
2013年度に決めました。